

### 第3章 評価の結果に対する対応方針

分科会の評価結果を受けて、国土技術政策総合研究所では以下のように対応する。

#### ■令和2年度 第1回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第二部会）

##### ・浴槽レス浴室のバリアフリー基準に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・気候条件等による、浴室の使い方・入浴方法の地域性について、既往文献調査等を踏まえて検討を進める。
- ・浴槽浴による心理・健康への効果については、既往研究等を整理するとともに、研究において連携、協力する関係者・関係機関等から知見の収集を含めて、効果の把握を進める。
- ・本研究では、新築対応に留まらず、在宅介護等に対応可能となるような住宅改修（特に浴室まわり）にも着目しており、高齢世帯の生活を想定していくつかのプランを設定した上での改修コストの検討も含めて、浴室空間に係る設計ガイドラインを取りまとめる方針である。その中では、必要な住宅改修の全体像の中で浴室改修の費用等を位置付け、また、脱衣室や廊下等の浴室に連続する空間のあり方、空間寸法以外の断熱改修等による対応についても記述する方針である。
- ・実験を通して必要空間面積や手すりや機器の配置等、浴槽レス浴室について明確にすべき基準の検討を進めた上で、導入を想定する建物タイプ（例えば、単身向け、二世帯住宅、介護施設）への適用の提案に繋げることとする。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分に留意し、研究を進めて参りたい。

##### ・都市関連データのオープン化と利活用の推進に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・3D都市モデルのデータと人口構成など社会経済的的属性データとの連携による都市問題解決等への活用も視野に入れつつ検討するよう留意する。
- ・コスト面や運用の実用性を考慮しつつ、点群データ等の活用により3D都市モデルのデータ更新頻度を向上する方法を検討するよう留意する。
- ・3D都市モデルの最新データだけではなく、過去の時点のデータも利用できるように、履歴管理を行う方法についても検討するよう留意する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

## ・既存建築物における屋根ふき材の耐風診断・補強技術評価に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めて参りたい。

- ・既存の屋根ふき材の修繕・改修時における耐風補強の実態を調査し、いくつかの耐風補強技術の例を対象にして、施工コストと耐風補強効果との定量的な関係やフィージビリティについて検討を行う。そして、その検討結果を具体的に把握しやすい形でマニュアルに提示することで、適切な耐風補強の実施へ誘導できるよう留意する。
  - ・既往研究等の知見も参考にしながら、既存の屋根ふき材の耐風性能や耐風補強効果の程度がルーフィングを含む下地の実況に大きく依存する点を十分に踏まえた検討を進めるよう留意する。耐風診断法では下地の劣化等の程度を診断指標に取り込み、耐風補強技術の評価法では接合部を含む下地構法のディテールその他の実況を反映できる許容耐力の算出法を検討する。
  - ・耐風診断法の検討では、既存の耐震診断法の枠組み等も参考にしながら、建築の非専門家（建築物の居住者や管理者等）であっても診断を円滑に実施でき、かつ、的確な診断結果を得られるよう、診断の前提としてどんな情報が必要であるか明確に示すとともに、屋根ふき材等の耐風性能との関係を理解しやすい診断指標を系統的に提示するよう留意する。
- その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

## ■令和2年度 第2回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第一部会）

### ・下水道を核とした資源循環システムの広域化・共同化に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・下水道分野と廃棄物分野の連携に関する先進事例等の調査を通じて、費用分担をはじめとして本研究の検討に関連すると考えられる情報を、国内外を問わずに収集するとともに、現行の法制度上の課題等についても留意しながら検討を進めていくこととする。
- ・地域バイオマスの下水处理場への受け入れによる資源循環システムのメリット・デメリットの両面に留意しつつ、施設の規模や老朽化状況、地域でのバイオマス発生状況等、地域の実情に応じた最適な資源循環システムを選択できるような評価手法を明示できるように、研究成果を取りまとめる。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

#### ・ 氾濫シナリオ別ハザード情報図に基づく減災対策検討手法の研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・ 研究の進捗に応じて「手引き」作成作業を早めに進めることを検討するなど、研究計画について柔軟に対応していく。
- ・ ハザード情報図に脆弱性を考慮したリスク情報図と被害軽減策を提示する。
- ・ 費用対効果だけでなく合意形成に有効と考えられる情報について検討する。
- ・ 自治体防災担当者等との連携を強化する。
- ・ 既存リスク情報を踏まえ誤解・混乱を招かないよう成果の提示方法に留意する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

#### ・ 土砂・洪水氾濫発生時の土砂到達範囲・堆積深を高精度に予測するための計算モデルの開発（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・ 国内外の研究成果、動向を網羅的に調査し、有効なモデルや考え方があれば積極的に導入するとともに、本研究の新規性、有効性を明確にする。また、研究発表会やシンポジウムに積極的に途中経過を報告し、国内外の大学、研究機関の研究者との意見交換の結果をフィードバックする。
- ・ モデルが精緻に、また複雑になりすぎると、実際に運用されている技術に導入できない可能性が考えられる。現在実用化されている技術に上手く導入できるよう、新規性や汎用性、実用性のバランスを考えた研究を行う。本研究では土砂・洪水氾濫による被害範囲を高精度に予測できるモデルを開発することを優先して検討を進めるが、将来的な展開として対策の効果を評価できるモデルを導入することも意識して研究を進める。
- ・ 開発するモデルの妥当性、汎用性については、水路実験結果のみならず実際の事例の再現計算を実施することで確認する。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。

### ■ 令和2年度 第3回 国土技術政策総合研究所研究評価委員会分科会（第三部会）

#### ・ 国際海上コンテナ背後輸送の効率化方策に関する研究（事前評価）

評価結果を踏まえ、研究の実施にあたっては、下記のとおり研究を進めてまいりたい。

- ・ 近年の新しい技術の利用可能性について検討を行う。
- ・ 内陸拠点の導入に関し、その開発・運営に十分な責任を果たせる経営主体のあり方について念頭においた検討を行う。
- ・ 海側の港湾について具体的な想定をおきつつ検討を行う。

その他、ご指摘いただいた事項についても十分留意して、研究を進めて参りたい。